
季節は流れる

竹仲法順

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

季節は流れる

【Nコード】

N1442W

【作者名】

竹仲法順

【あらすじ】

在宅でソーホーの仕事をしているあたしは四十代で独身だった。ネットを通じて商品の受発注などを行ないながら、家で業務をこなす。常に在宅で仕事しながら、季節が夏から秋へと移り変わる時季を思っていたのだが……。

朝起きるとき、とてもだるかった体の疲れが幾分治まりつつある。あたしはベッドを出てキッチンへ向かった。今からホットコーヒーをブラックで淹れて一杯飲み、その後、仕事を始めるつもりだ。自宅で仕事をしている人間にとって時間の管理は難しい。パソコンを立ち上げてネットに繋ぎ、画面を見つめながら在宅業務のソーホーの仕事をしていた。元々対人関係が苦手で、ネット経由で商品の受発注などを担当する仕事を見つけてからすぐに応募して、今の仕事に有り付いたのだ。別に外に出て働くことだけが仕事じゃない。そういうことを勘違いしている人間が未だに大勢いる。まあ、在宅で月に手取りで五十万ちょよとの給料を取っているあたしに言わせれば、その手の勘違い人間たちの言動がバカバカしく思えたのだが……。

*

独身だ。別に彼氏を希望しているわけじゃないし、旦那を作ったり家庭を築いたりすることがとても苦手だった。だから一人であることに慣れている。その分、外部と電話やメールで連絡を取り合っていたので、電話代や電気代などが余計に掛かっていたのだが、別にそういったことぐらいどうでもいいと思っっている。あたし自身、ディスプレイを見ながら必要に応じてキーを叩く。画面が大きなデスクトップパソコンだったので、タッチパネルはない。マウスを操作して合間にデータを入れ込んでいく。コピーペーストで出来る分もあるのだ、楽なところはあった。パソコンというものが何かと家にこもりがちだったあたしに仕事をくれたと思っっているし、実際世の中似たような人間は山ほどいる。その一人だと思えば済む話だった。

*

パソコンが設置してあるデスクの左脇に、淹れていたコーヒーの
カップがあつて、一口、もう一口と飲みながら、午前中の業務をこ
なす。商品の受発注はすでに終わっていたので、後は配送業者宛に
メールを送るだけだ。それで昼までの仕事は終わりなのである。午
後からも引き続き仕事する。だけど大抵午後三時ぐらいになれば業
務は終わっていた。それからは一時間コーヒータイムだ。一人だ
つたが、近所の店で買い置きしていたスイーツがあつた。それを皿
に載せて食べながら寛ぐ。疲れはあつた。眼の疲労が特にひどい。
以前から朝食後にブルーベリーのサプリメントと、錠剤タイプの栄
養剤を飲んで仕事を始めていたのだが、さすがにこும்きついと参
つてしまう。コーヒープレイクでお茶を飲み、それからDVDレ
コーダーに録っていた好きなテレビドラマを見るか、映画などを見
るか、どちらかだつた。あたし自身、慢性的に疲労はあつたのだが、
さすがに四十代にもなればそういったものが出てくるのも致し方な
いと思える。なるだけ夜は睡眠時間を取ろうと思うのだが、いかん
せん夏の終わりで寝苦しい。季節は夏から秋へと流れるのだけれど、
疲労はドツと出てくる。夜は眠る前に部屋にクーラーを利かせ、涼
しくしておいてからベッドに潜り込んでいた。連日の仕事で目を酷
使しすぎてかなり疲れている。だけど、あたしのように製造メーカ
ーと消費者の間で商品を仲介する人間がいないと、世の中の流通業
は成り立っていかない。責任があるのだった。人に商品を買つても
らつて、それで初めて仕事が成り立つのだから……。

*

夏も終わりに近く、少し涼しくなっている。朝起きたときから、
ベッドの上にはしばらく寝転がって、時間が来れば起き出す。あたし
自身、健康的だ。夜は午後十時過ぎに眠り、朝は午前六時前に自然
と目が覚めていた。睡眠時間は八時間あれば十分なのだ。起き抜け
にコーヒートヨーグルトで食事を済ませてから一日が始まる。確か
に夏の疲労は取れにくい。秋口になつても体の奥底では残っている。
それにストレスも溜まりがちだつた。慢性的に、である。洗面を済

ませてパソコンに向かう。メイクはあえてしなかった。女性で化粧をしないのは普通の人からいぶかしまれてしまうのだが、構わない。要は仕事をするのに、ずっと一日中パソコンに向かっているから、メイクの載りなど関係ないし、外出する際はちゃんと化粧していた。さすがにあたしのようなオバサンは、若い子たちのように綺麗にメイクが載ることはなかったのだが、いくら年齢が行っていてもいつまでも若くいたい。そういった点ではしっかりと美容などにも気を付けていた。これは女性にとって永遠の願望なのだ。

*

毎朝パソコンを立ち上げ、ネットのメールボックスを開いて、新着メールをチェックする。それから一日の仕事が始まるのだ。業務上必要なメールにはちゃんと目を通して、返信もしていた。先方には気を遣うのだ。何せ仕事を回してくれるのだから……。スパムも大量に入ってくるのだが、業務には特に支障がなかった。そして顧客リストを元手に、ダイレクトメールを送信する。いろんな客がいて、ネット通販がこれだけ流行るのだから、今という時代は何も不自由がない。あたし自身、そういったことは痛感しているのだった。あたしの自宅のオフィスに一日辺り何件の問い合わせが来るのか、普通の人だと想像がつかない。だけどそういった雑事も淡々とこなしていく。こういったことは事務的な作業なので、仲介人である以上、別に何を言うまでもなかった。ただカスタマーがいれば商品を受発注することは当然だ。そういったことが分かった上で続けた。

*

八月も下旬で夏も終わりに近付き、仕事は順調に進んでいる。通販サイトでもこの季節は秋に向けていろんな商品が売られるからだ。あたしの経営しているソーホーも例外じゃない。常に新商品を出していく。それが市場に入れられ、客は飛びついてくるのだ。確かにあたし自身、いろんなことを考え続けていた。私生活においては独り身で気楽だったが、これから先どうなるのか分からない。想いを

巡らせることはたくさんある。だけど考えすぎてもしょうがない。今出来ることをするのが一番だった。そういつた点では前向きでいられる。おまけに、今考えていることも所詮杞憂きゆうに過ぎないのだ。無用な心配事である。するだけ無駄だと思えるような……。

*

少し涼しくなったかと思えば、また暑くなる季節だ。とても体調が変化しやすいのだが、仕方ない。自分自身で健康管理するしかなかった。朝はいつもホットコーヒーとヨーグルトで済ませ、昼間は仕事をし、終わったらゆつくりと缶ビールを飲む。料理を作る前に一缶飲んで、食事しながらもう一缶ぐらい飲んでた。体の調子には万全に気を配る。そして毎日仕事をしてた。迷うことはないものと思われる。単にちよつと気候が変わり始めていて、それに釣られるように、同時に体の調子も変化していた。一時的なものだ。別にこれと言って何かが大きく変わってしまったわけじゃない、迷ったときはいったんパソコンのキーを叩くのを止め、深呼吸する。肺の中に新鮮な酸素を入れるのだ。これでちよつと気持ちが悪くなる。秋はすぐそこまで来ている。あたしにとっても過ごしやすい季節がまた訪れようとしていた。まあ、そういうたシーズンもすぐに過ぎ去ってしまい、また冬が来て寒くなるのだが……。

(了)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1442w/>

季節は流れる

2011年10月4日07時13分発行